

6.1 環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業〈環境配慮型先進トラック（電気自動車）導入事業〉

②EVトラック導入によるランニングコスト削減と労働環境改善の実現

事業概要

事業者概要	事業者名	西濃運輸株式会社 (ダイムラー・トラック・ファイナンシャルサービス・アジア株式会社)
	業種	運輸
事業所	所在地	千葉県
	総延床面積	-
補助金額	補助金額	約1,465万円
	補助率	2/3 (掛かり増し経費に対する)
主な導入設備	従前設備	ディーゼルトラック
	導入設備	EVトラック2台 (8トン未満)
事業期間	稼働日	2022年2月
区分		新設
特長		電動トラックの新規導入により、軽油から環境に優しいエネルギーへの切り替えが実現でき、脱炭素社会推進に貢献できた。エネルギー転換に伴い、ランニングコストの削減もできた。また、電動EVトラックは運転時に振動と騒音が少ないため、ドライバーの労働環境が改善された。

システム図



【EVトラック】

写真

導入車両



6.1 環境配慮型先進トラック・バス導入加速事業〈環境配慮型先進トラック（電気自動車）導入事業〉

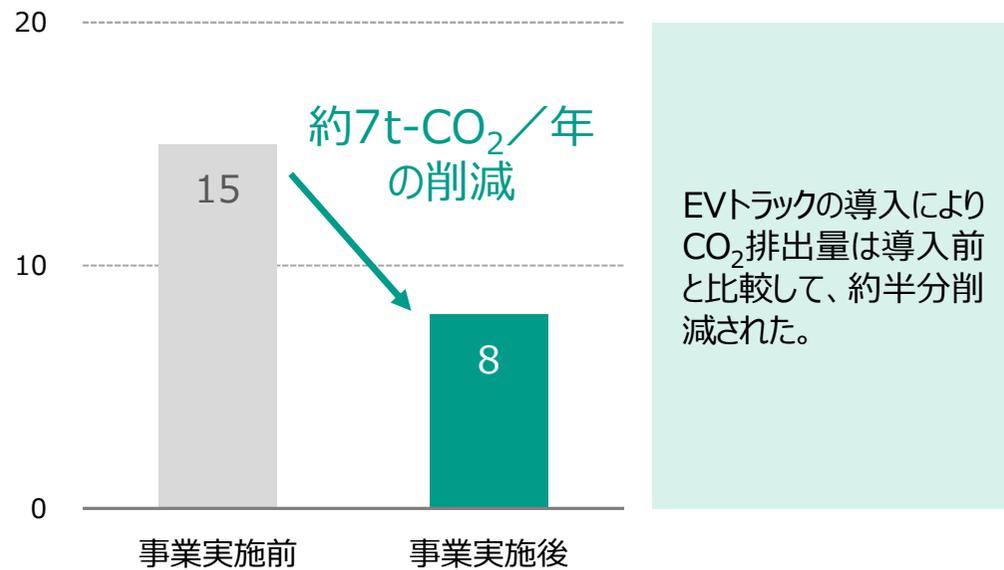
②EVトラック導入によるランニングコスト削減と労働環境改善の実現

事業の効果

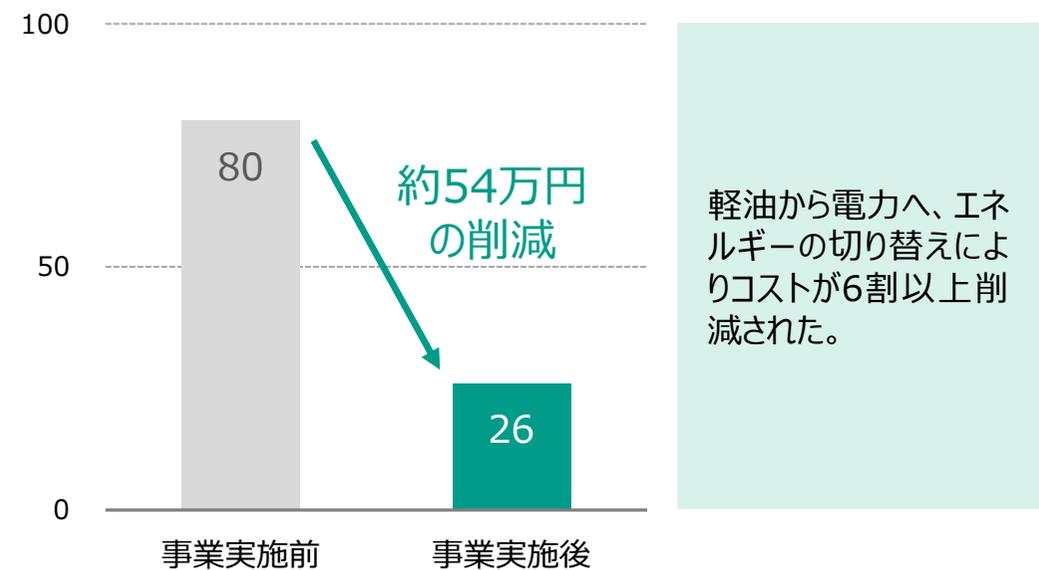
エネルギーコスト削減額		約54万円／年
投資回収年数	補助あり	約43年
	補助なし	約70年

CO ₂ 削減量	約7t-CO ₂ ／年
CO ₂ 削減コスト	514,121円／t-CO ₂

CO₂排出量 (t-CO₂／年)



エネルギーコスト (万円／年)



【脚注】

※ ここに示す事業の効果は、電力単価：15.2円／kWh（出典：電力・ガス取引監視等委員会HP）、軽油単価：142,000円／kL（出典：資源エネルギー庁HP）を用いて試算したものである。また、事業実施前は同サイズのディーゼルトラックを想定して試算をした。

②EVトラック導入によるランニングコスト削減と労働環境改善の実現

事業によって実現できたこと／事業前にあった課題及びその解決方法

■「EVトラックの新規導入」によって、サプライチェーンのCO₂排出量削減に貢献した。

- 荷主から運送におけるCO₂排出量削減として、EVトラックの導入の要請があり、隣県から主に電子機器の運搬を行う配送トラック（配送距離は片道30km程度）をEV化したことで、自社のCO₂排出量を削減すると同時に荷主側のScope3のCO₂排出量削減に貢献できた。

■「EVトラックの新規導入」によって、CO₂削減以外に、以下のような副次的効果があった。

- 軽油価格が高騰していることもあり、車両の電化によりエネルギーコストが削減された。

エネルギーコストが削減

実施前 軽油の価額が高騰し、エネルギーコストが高かった。

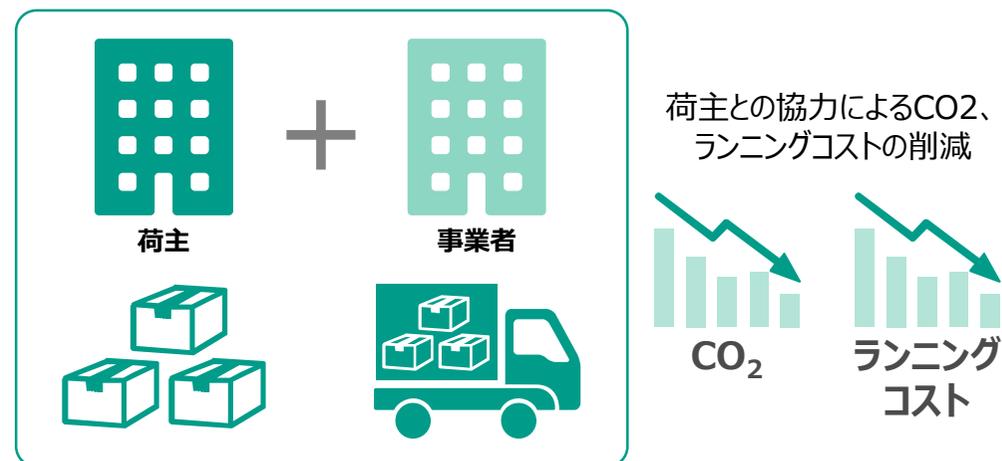


実施後 電力への転換により、エネルギーコストが削減できた。



エネルギーの転換により、**エネルギーコストが削減**された。

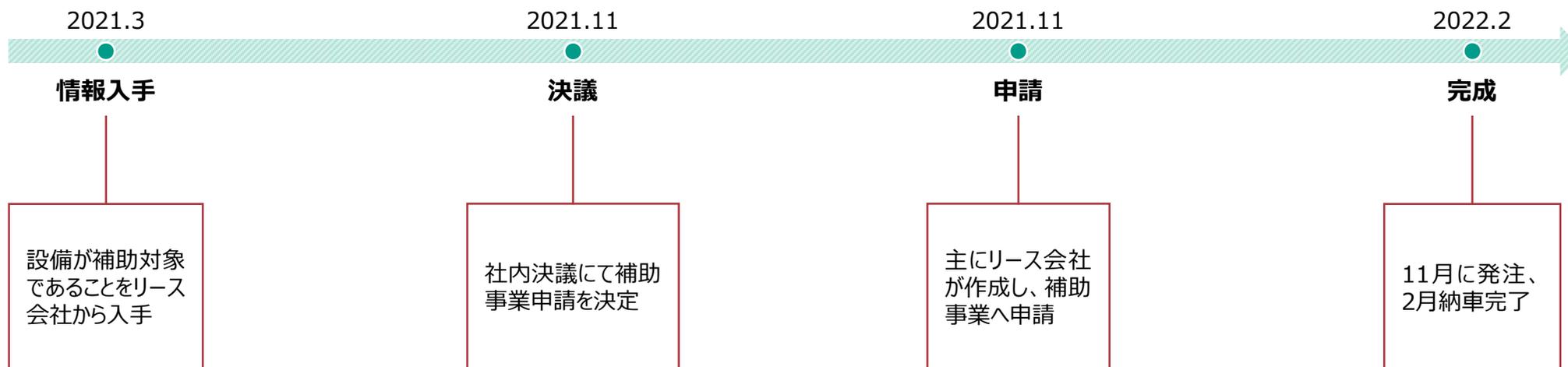
荷主のCO₂削減へ貢献



荷主との連携により、**荷主のCO₂削減**へ貢献できた。

②EVトラック導入によるランニングコスト削減と労働環境改善の実現

事業の経緯／今後の予定



事業者の声



木野村 武史

ロジスティクス部 部長

- 本事業の導入により、CO₂排出量の削減に貢献しており、会社のランニングコストも削減されますので一石二鳥です。
- 当社の要望もありましたが、政府からの補助金も利用できたので、環境配慮の事業を積極的に進めることができました。